

個の確立した表現。

東仲一矩(バイレ)

大下まゆみ(バイレ)

伝統回帰、もしくは重視。ギターとカンテ1対1の、フラメンコ独自の形で聴く人を感動させられる力を持ったうえで（この形での活動もしつつ）、グループでの演奏やコラボへ手を広げてほしい。本来のヌメロを大切に、物語の展開によってでなく、純粹に“フラメンコの感動”を観客に伝えられる力を持ったうえで、オブラへ手を広げてほしい。「……べき」とは言える立場にありませんが、私の希望です。

小森皓平(カンテ、ギター)

まず、カンテ、ギターのためのイベントがさらに増えること。そしてフラメンコ界からメジャーな世界にスターを生み出すこと。フラメンコ界のアイドルがマスコミ（テレビとか）にとり上げられることによって、さらに日本のフラメンコ人口が増えることは間違いない。自分もなんとかそれには協力したい。ちなみに、カラオケの中にカマロンの曲が1曲入っていること、みなさんご存じですよ？

花岡陽子(バイレ)

フラメンコを追求していくことと並行して、日本人独自のフラメンコを生み出す努力をしていきたい。

本田恵美(バイレ)

的を射ているかわかりませんが……日本においては、ひと昔前のようにスペインの流行に乗せられて流されるのが少なくなり（みんなモデルノな振りをマネするとか）、プリミティブでプーロな方向、あるいはファミリアでのフェルガ的なもの、一方、テクニク重視でグローバルなフラメンコ、いろいろな道を追求する土台が固まってきたと思います。

篠田三枝(バイレ)

いろいろな人の考え方があり、いろいろありますが、私は純粹なフラメンコだけでなく、いろいろな形があつていいと思います。その中で流されず、自分がどの形をしたのか、どのフラメンコの人なのかをはっきり理解しなきゃいけない時代だと思いますが。

水落麻理(カンテ)

わかりません。ただの音楽ではない、なにかを大事にしていければいいと思います。

香川マサノリ(ギター)

次世代の強いリーダーを求めているか、見失っていて、とりとめのない感じ。

萩原淳子(バイレ)

なにを目指すかは各々の感じ方、表現の仕方によって異なっていると思う。ただしフラメンコの本質に対峙せずに、フラメンコのいいところ取りだけをした音楽と舞踊をフラメンコと呼んでほしくない。そして自分の「好み」だけでフラメンコか否かを計るのは偏見であり、フラメンコのみならず自身の可能性をも閉ざす危険性があると思う。

鈴木能律子(バイレ)

日本（東京）では、毎週末フラメンコの催しがあるほどに盛況になったのは喜ばしいことと感じている。ただ、近年ヘレスのフェスティバルに行って思うことは、「劇場フラメンコ=オブラ」が多すぎて閉口気味。抽象的でなにが言いたいのかよくわからない（外国人でスペイン語が完全に理解できないことも原因か？）。純粹で観ただけで胸がすくような（いっぱいになるような）ものが観たい（聴きたい）。スペイン人アルティスタはさんざんやってきたから、なにか目新しいものがやりたいのかもしれないが、いいカタチで伝わってないように思う。飾らないフラメンコでいいんだと思う。観たいのは、その人の真の核（コラソン）の部分なのだから。